

議会だより



瀧神社雌瀧、滝の裏から母子宮を望む

179号

令和8年8月1日発行

発行 奈義町議会
編集 議会広報委員会

〒708-1392

岡山県勝田郡奈義町
豊沢306-1

☎(0868) 36-4191

【おもな内容】

- 6月定例会、第1回臨時会で決まったこと 2～3ページ
- 常任委員会、特別委員会 4～5ページ
- 一般質問（9名） 6～14ページ
- 勝田郡議会議員協議会総会、自治体フォーラム 15ページ
- 常任委員会合同視察研修、編集後記 16ページ

第1号について

(緊急経済対策含む)

令和8年第2回定例議会が6月1日から17日まで開かれ、**条例**4件、**補正予算**2件、**契約**1件、**報告**4件、**意見書**1件、**陳情**1件、**その他**2件の合計15件を審議しました。

《 条例 》 3件

議 案	概 要	審議の結果
奈義町行政手続条例の一部を改正する条例	行政手続法の改正に伴い、聴聞及び弁明の機会の付与の通知に係る公示送達をデジタル化し、庁舎掲示板と合わせてインターネットへの掲載を可能とするもの	全員一致で可決
奈義町営さと丸乗り合い交通条例の一部を改正する条例	公共ライドシェア事業（津山中央病院直行便）の実施に伴い、さと丸乗り合い交通を「町内便」「町外便」とそれぞれ区分し、所要の改正を行うもの	全員一致で可決
奈義町障害者医療費給付条例の一部を改正する条例	障害者医療費給付における受給資格の判定に高齢福祉年金制度の改正内容を反映させるため、所要の改正を行うもの	全員一致で可決

《 補正予算 》 2件

議 案	概 要	審議の結果
令和8年度奈義町一般会計補正予算（第1号）	歳入歳出予算の総額に60,000千円を追加し、8,220,000千円とする ○緊急経済対策事業 計54,000千円 ①水道基本料金減免 30,000千円 令和8年5月～10月までの6か月分 ②お米購入補助の実施 3,000千円 1袋（5Kg）2,500円で販売（1,000袋） ③米作り農家支援の実施 20,000千円 菜の花米を栽培するエコファーマーに対して、40,000円/10aを交付 ④おむつの支援の実施 1,000千円 こども園に通う0～2歳児のおむつのサブスクを、月額1,000円で利用可能	全員一致で可決
令和8年度奈義町上水道事業会計補正予算（第1号）	緊急経済対策事業の水道基本料金減免に伴う予算組み替え補正（30,000千円）を行うもの	全員一致で可決

《 契約 》 1件

議 案	概 要	審議の結果
塵芥収集車購入に係る物品売買契約の締結について	塵芥収集車購入（1台） 相 手 方 有限会社 阪神整備 契約金額 12,072,305円	全員一致で可決

6 月 定例議会

令和 8 年
6 月 1 日～17 日

令和 8 年度一般会計補正予算 全員一致で可決

《 報告 》 4 件

議 案	概 要	審議の結果
専決処分の承認について (奈義町税条例の一部を改正する条例)	令和 8 年度税制改正による地方税法等の一部改正に伴う改正（個人住民税、軽自動車税、固定資産税関係の改正）	全員一致で可決
専決処分の承認について (奈義町国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	令和 8 年度税制改正による地方税法等の一部改正に伴う改正（子ども・子育て支援納付金の新設、国民健康保険税の課税限度額の引き上げ等の改正）	全員一致で可決
令和 7 年度奈義町一般会計繰越明許費の報告について	緊急経済対策事業費の一般財源 61,000 千円及び国県支出金（社会保障・税番号制度システム整備費等）8,707 千円を繰り越すもの	報告受
令和 7 年度奈義町一般会計事故繰越の報告について	通学路安全対策事業費（グリーンベルト設置等）の工事完了遅延に伴う 10,010 千円を繰り越すもの	報告受

《 陳情、意見書 》 2 件

種 類	議 案 等	審議の結果
陳 情	教職員定数改善と義務教育費国庫負担率引き上げをはかるための、2027 年度政府予算に係る意見書採択の陳情について	全員一致で採択
意見書	上記陳情に基づく意見書	全員一致で可決

《 議会提出の条例等 》 3 件

議 案	概 要	審議の結果
奈義町議会委員会条例の一部を改正する条例	まちづくり常任委員会の所管について、令和 8 年 4 月 1 日の組織改編に伴い改正するもの	全員一致で可決
ハラスメント防止特別委員会に付議された事案に関する調査を依頼する件	地方自治法第 100 条の 2 に基づき、部外有識者に調査を依頼するもの	全員一致で可決

その他、所管事務の調査について全員一致で可決した。

第 1 回 臨時会（令和 8 年 6 月 26 日）

《 契約 》 9 件

移住サテライトベース（旧中央東幼稚園）整備事業工事請負契約 1 件を、賛成 7、反対 2 で可決
道路改良工事請負契約 1 件、コンバイン 3 件・トラクター 4 件の物品売買契約を、全員一致で可決

委員会報告

総務常任委員会

総務常任委員会は、総務課、税務住民課、こども・長寿課、出納室、学事課、生涯学習課、学芸図書課が所管する事業について審査を行います。

■委員長：森藤政憲 ■副委員長：野々上美智明 ■委員：岡 立・小阪四郎・芦田 元

【総務課】

防災情報について

- Q** 防災情報の見直しがある。町も地域防災計画を更新する必要があると思うが
- A** 更新をする予定だ

【総務課】

旧中央東幼稚園の改修について

- Q** 旧中央東幼稚園の改修は有効活用ができるようになっているのか
- A** 防災が目的で、空いている時はB & Gのスポーツ合宿の宿泊も検討

改修されたB & Gのトイレ
(洋式化、オムツ交換台の設置)
今後、他のトイレも改修予定



【総務課】

米作り農家支援について

- Q** 米づくり支援の範囲を広げたものにすべきではないか
- A** 菜の花米応援も含め、今後検討していきたい

【学事課】

A L Tについて

- Q** A L Tの業者との契約はどうなっているか
- A** 契約は済ませている

【総務課】

空き家対策は

- Q** 空き家の需要はどうか
- A** 令和7年度は13件が登録され、8件購入した

【総務課】

トイレ改修について

- Q** トイレ改修は良いが、維持管理もしっかりしてほしい
- A** きちんに対応したい

まちづくり常任委員会

まちづくり常任委員会は、情報企画課、未来創造課、産業振興課、地域整備課が所管する事業について審査を行います。

■委員長：中井泰洋 ■副委員長：須一玲子 ■委員：上原伸介・岡部英生・定森久芳

【未来創造課】

ふるさと納税のなぎビーフについて

Q 生産者の情報を添付すれば納税者との距離間が縮まるのでは

A 顔が見え、距離間が縮まるのがふるさと納税の増額のポイントだ。できることは取り組んでいきたい

【産業振興課】

農作業労働力支援事業について

Q 活動を開始する時期が、少しでも早くなる可能性はないのか

A 紹介、募集等で採用していく。その後研修等もあり、今年度の農作業に間に合うか現時点では確定していない

【地域整備課】

アートの森事業について

Q 町民が理解し、若い人の意見も反映しながら、一致団結して前に進めるよう、広報や疑問を解消する窓口を作してほしい

A 町民のみなさんと、このエリアを育てていきたい。みなさんを巻き込む工夫を、ますます検討していきたい。いつでも地域整備課に尋ねてもらえば説明することもあわせて広報したい

議会・議員活動のあり方調査特別委員会

■委員長：森藤政憲 ■副委員長：中井泰洋 ■委員：上原伸介、芦田 元、定森久芳



意見交換会風景

委員会を、5月8日、6月5日、6月19日、7月7日、7月13日に開催した。

令和7年度の議員活動調査を実施し、その結果を集計した。

全19地区で行った「町民と議会との意見交換会」で出された意見をとりまとめ、8月の議会だよりにより折り込むことに決めた。また、急ぐ意見についてまとめ、議会と町長宛に提出する予定である。

Q 小学1年生に ランドセルの購入補助を

A 子どもたちも小学校入学は心待ち
にしており、前向きに検討する



岡部 英生 議員

質問

町の大切な宝、子どもたちに夢と希望をあげてほしい。

来年度から小学1年生にランドセルの購入補助を行ってはどうか。

答弁 町長

提案をいただいたランドセルは、近年はランリユックなどの多様化もあり、価格帯は幅広くなっている。新たな補助制度を設けるには、補助対象経費の確認や制度設計上の課題について整理する必要がある。保護者の皆様が安心して子育てのできるまちづくりに努め、子どもたちが夢と希望の持てる一つの方策として、前向きに検討する。



たくさんのランドセル

質問

国土強靱化を進めるためには、公共事業を滞りなく執行することが重要である。町内では老朽化や損傷のある舗装道路

Q

老朽化や損傷した舗装道路の整備を
改めて最新の路面状況調査を実施し修繕計画の見直しを進める

A

改めて最新の路面状況調査を実施し修繕計画の見直しを進める



かわいいランドセル

が多い。これらをどのような基準で整備されるのか。

答弁 町長

前回の調査から約10年が経過した。改めて最新の路面状況調査を実施し、道路の傷み具合を把握し、修繕計画の見直しを進める。そして総合的に評価をし、優先順位を決定し、必要度の高い路線から計画的に整備を行う。



ひび割れた道路

※その他に、アートの森について質問しました。



野々上美智明 議員

Q 国勢調査の速報値に基づく人口推移の評価・受止めは

A 最も大きな要因は自然減であり、次に日本原駐屯地の部隊改編の影響による社会減である

質問 奈義町の人口は25年10月1日現在5千百人となり、前回から478人減、減少率8・6%である。この評価と受け止めを伺う。

答弁 町長 本町の減少率は美作地域の3市5町2村の中で、低い方から4番目である。最も大きな要因は自然減であり、昨年度までの5年間で271名の減少である。

また、同期間の自衛隊関係者は、172名減少している。

質問 今後の人口維持施策への取り組みについて伺う。

答弁 町長 自衛隊関係者を除くと同期間では、23名の社会増となっており、選ばれる自治体となっている。今後は、これまでの子育て支援、教育の充実、高齢者対策、医療の支援、環境保全、多文化共生、交通の確保、観光振興、農業振興などに加えて、奈義町が自慢できる自然と文化芸術を生かした新たなまちづくりの魅力や発信に取り組む。

Q 町民の高齢者福祉施設利用ニーズと現状の評価は
A 施設入所待機が大きな課題となっている状況にはない

質問 高齢者福祉施設への入所待ち(待機)に対する認識を伺う。

答弁 町長 特別養護老人ホームなどの施設サービスについて、希望される施設により入所の申し込み状況や施設の受け入れ態勢の事情があり、希望する時期に希望する施設へ直ちに入所できない場合もあると認識しているが、現時点で本町における介護サービス基盤が不足し、施設入所待機が大きな課題となっている状況にはないと認識している。どこの施設のどういう部屋でないといけないと言われると難しいが、選ばなければどこかに入所できる状況に、探せる状況にあると認識している。

Q ナギダイアリーの広報効果と準備状況は
A 広報効果を最大限活用できるよう取り組む

質問 映画の9月25日の全国公開にあわせ、具体的な準備状況について伺う。

答弁 町長 聖地巡礼を目的とした来町者も増えると思う。そのため、聖地を紹介するロケ地マップの作成、映画に関連したグッズの作成、ロケ弁の再現、特産品の紹介等、多岐にわたる施策を検討している。町では、若手職員のプロジェクトチームを立ち上げ、具体的な対策を行っていく。



ポスター

Q 「アートの森構想」における総事業費28.4億円の投資対効果、人口維持効果について

A 年3万人来訪で36名定住するとの外部試算 関係人口から移住につなげる



定森 久芳 議員

質問 期待通りの効果が出ない

場合、28・4億円の投資や将来の維持管理費が医療・福祉・子育て・農業支援などの予算を圧迫しないか。

答弁 町長 財政シミュレーションにより、期待した効果が十分に現れなかったとしても、既存の住民サービスが縮小することはないと確認している。

質問 説明会で発言した人の3分の2以上が心配や疑問を口にしていたと思う。

アドバイザー平子氏の「アート単体では人口維持に直結しない」との発言をどう捉えるか。

答弁 町長 平子氏の発言は「一つのものだけでなく全体で取り組むことで効果が出る」という意味である。

質問 広報紙への折り込み等だけでなく、定期的に双方向の対話の場を継続して設ける計画はあるか。

答弁 町長 今後は出前説明のほか、若者・子育て世代・女性

の意見も聴く機会を設け、分かりやすい情報提供を行う。

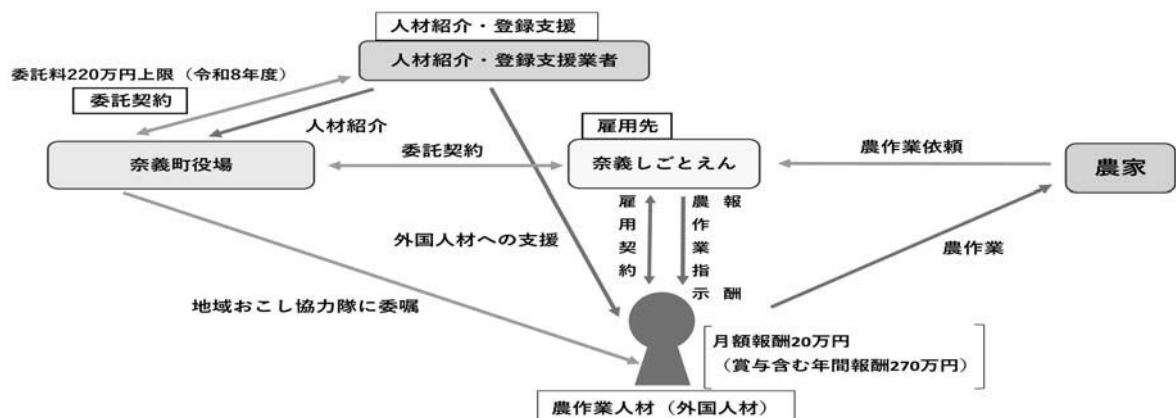
Q 地域おこし協力隊を活用した「外国人材受入」について制度趣旨の逸脱ではないか

A 3年間の雇用期間中に技術・経験を深め、卒業後の就農や定着を目指す施策のため目的外ではない

質問 紹介支援業務委託料上限200万円、1人あたり年270万円の報酬が支払われる中、仲介事業者や、「奈義しごとえん」を挟む多重構造は、経費の無駄遣いになっていないか。

答弁 産業振興課長 町が紹介業者、奈義しごとえんとそれぞれ直接契約を結ぶため多重構造にはならない。報酬額も活動を支援し、地域への定着を促すためのもので、物価高を勘案した必要最低限の費用である。

地域おこし協力隊関係図（外国人材の場合）





須一 玲子 議員

Q これからの町づくりについて

A 人口維持を図って奈義町の持続的発展を果たしていきたい

質問

これから、小さくても輝く町づくりを目指すのに奈義町は何が欠けているのか、何を誇らしいと思えるのか、これからのまちづくりを行う上での町長の考えを伺う。

答弁 町長

景色もよいし人もよい、文化芸術が守られ保存され生かされ、生活が楽しめるところが奈義町のいいところだ。遠方からも人が訪れる現代美術館をはじめとする現代アート、そして地域を支える人の和などが他市町村に誇れる本町の特徴であると考えている。思えば、これを町の誇りとして気持ちの一つにしてまちづくりを進め、人口維持を図って、奈義町の持続的発展を果たしていきたい。

Q

高齢者の安心・安全について

A

高齢者安心・安全条例の理念に基づき、最後まで安心して暮らせる町づくりを目指していく

質問

生活を送る上で住まいの問題がある。終活をして片付けをしたいができない。空き家対策の補助のように生前の片付けに補助を考えてはどうか。

答弁 町長

家財整理やごみ処理については、有料ではあるが、事情に応じて利用できる制度がある。生前整理については、高齢者の皆さんが安心して終活に取り組むことができるように、

質問

これから検討していきたい。

Q

防災行政無線と防災タブレットの端末の利用について

A

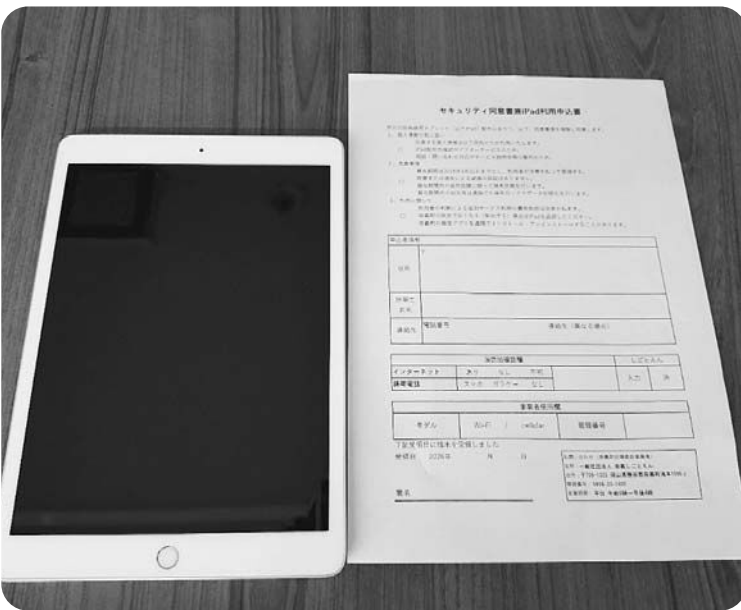
それぞれの特性やメリットを生かしながら、多様な手段で町民の皆様へ情報を届けたい

防災無線は必ず各戸に設置されているはずだが、設置状況の確認をしているか。タブレットの取り扱い説明はできているか。

答弁 町長 防災無線を設置していない場合は役場にお知らせいただきたい。

答弁 総務課長 タブレットについては説明会を順次計画している。たとえ考えている。

防災用タブレット



Q 今後の賃貸住宅整備は

A 行政と民間の強みを生かし 住宅の確保と供給拡大に務める



中井 泰洋 議員

質問 賃貸住宅整備をどのようにしていきたいのか。

答弁 町長 民間との共同で機を逸せず取り組まなければならない。

民間賃貸住宅に関しては、事業者等による供給を促進するため、新築及びリフォームに対する補助制度を設けている。

質問 現在の建築事情は、コロナ前に比べて建築費が約2倍になっている。

民間に補助をしながら、今ある若者住宅のような賃貸住宅を建設するべきと思うが。

答弁 町長 近年、住宅建設費が大幅に上昇し、民間事業者による賃貸住宅整備のハードルが高くなっていることは十分認識している。

今後も、必要な補助金額の見直しを行い、時代の流れや実情に応じた支援に努めたい。

人口維持、定住促進に必要な住宅供給量を見極めながら、民間と行政のそれぞれの強みを生

かし、賃貸住宅の確保と供給拡大に向けた取り組みを着実に進めていきたい。



賃貸住宅の確保と供給拡大を（現在の若者住宅）

質問 現在の人員で多大な業務を遂行していくために、工夫、業務改善をしていることは。

答弁 町長 時代に合わせ住民サービスの向上を図るためDX、AIの活用、業務手順の見直しや手順書整理などの業務改善を進めている。

また、奈義しごとえんやビジット奈義等への事務事業の外部委託、地域活性化起業人制度の活用による企業からの派遣、津山圏域定住自立圏における広域事務処理、企業からの副

業人材等々の活用をしている。今後も、外部人材の活用、適切な人材確保に努め、職員が能力を十分に発揮できる職場の環境づくりと、効率的で持続可能な行政運営に取り組んでいく。

Q 役場の多大な業務を遂行するための工夫、業務改善は

A 外部委託、活性化起業人、企業の副業人材等の活用をしている



小阪 四郎 議員

Q 人口減少問題を町長としてどのように考えているのか

A 町の根幹を揺るがす大きな問題である

質問

人口問題は奈義町だけの問題ではないが、奈義町を預かる町長としてどのように対応を考えているか。

答弁 町長

人口の増減の要素は、出生と死亡、そして転入と転出である。出生は産みやすい、育てやすい環境が重要である。転入、転出では、転出をしない理由、そして魅力が町に必要だ。それぞれの人生の目的に合った楽しく生きる環境づくりで、都市にない環境を奈義町でつくる必要があると考えている。直近5年間の自衛隊関係者以外の転入、転出を見ると、転入が転出を23名上回る社会増となっている。本町が取り組んできた施策の効果が現れ始めていると捉えているが、人口維持に効果的な施策が展開できるよう見直しを進めながら新たな町の魅力にも取り組んでいく。



コンクリート化した法面



現状の法面

A

優先順位の高いところから計画的に進めたい

Q

町道の法面が広い所のコンクリート化について

質問

町道の法面の草刈等、地区で管理している所があるのではないかと思っている。今のところ、各地区がそれなりの対応をしている現状ではないか。各地区とも高齢化でそれぞれの問題を抱えながら頑張っているのが現状だと思っている。そろそろコンクリート化すべきだろうと思うがどうか。

答弁 町長

現在は道路の新規改良工事や修繕工事の際など、一体的に防草、保護コンクリートの施行を実施する運用としている。

地区の草刈り活動については、深く感謝している。

現在、地区活動による草刈りに対し、年2回分の報償費を支出支援を行っている。道路の路肩コンクリート化については計画的に進めていきたい。

Q ふるさと納税制度で集荷した米を、
損切り販売したことは不当ではないか

A 損切りはエコファーマー連絡協議会
がした。米は町の所有でない



芦田 元 議員

質問

「ふるさと納税米はエコファーマーの所有」であり「損切り販売をした」と説明されているが、どの会計帳簿にどのように記帳しているのか伺う。

答弁 町長

エコファーマー連絡協議会は、収益事業を行っていない任意団体だ。

答弁 産業振興課長

経理上の処理はエコファーマー連絡協議会事務局の町が担っているのが現状だ。

Q

1800俵売り、2000万円の差損金を出したのは町の責任ではないか伺う

A

損失の一旦は町にあると認識している

質問

町が2800俵集め、1000俵ふるさと返礼米で使い、残った1800俵を民間業者に売り、2000万円損失金を出したことについて、5月29日のまちづくり常任委員会で、連絡

協議会に負債を抱えさせ、経済対策や事務費の名目で資金を入れ、4年から5年かけて回収すると説明されたが、エコファーマー連絡協議会には組織上責任はなく、町の責任ではないか。

答弁 産業振興課長

損失は町に責任の一端があることは認識している。米はエコファーマーの所有であり、損失金は、連絡協議会の会計上にある。

Q

8年度は、米の需給が厳しいが、リスク管理は検討されているか

A

ふるさと納税の返礼米として、米も集まり、需要もある

質問

需要に見合った集荷調整が出来るようにルールがいる。生産者の了解を取っておくことが、重要であるが伺う。

答弁 町長

米も集まり、需要もあるという見込みを立てている。

質問

リスク管理ができていないと思う。前年は1000俵の実績にとどまり、8年度は3000俵の計画とのことだが、善管注意義務をどのように果たすのか伺う。

答弁 町長

米や肉の需要は変わらない。必ず需要はあるという見込みを立てている。

Q

「アートの森」全体事業費28億4000万円の維持費、人件費、更新費用は事業の進捗に応じて試算を進めたい

A

質問

施設は、建設よりも維持の方が重要である。維持管理費の長期試算が示されていない。重要な検討項目である。町民や議会になぜ示さないのか伺う。

答弁 地域整備課長

不明確な見通しや、数値を公表すると混乱するので、精査できたら説明する。



森藤 政憲 議員

Q 「アートの森」は、町民アンケートで町民の意向を把握する事が適切と思うが

A 単純に賛成、反対のアンケートはとらない。必要な調査は行う

質問 28億4000万円という

大事業の「アートの森構想」について、町民の理解があるのかどうか、町民アンケートを実施し町民の意向を把握することが適切と思うかどうか。住民投票を、との声もある。

答弁 町長 単純に反対、賛成を問うアンケートは行わない。必要な調査はしていく。

Q 全体28億円の財源は

どうなっているか

A 1期の12億円は認定されているが、2期の認定はこれから

質問 地方創生事業は、1事業につき最大10億円の国からの交付金となっている。28億円の内、14億円はいつ認定されたのか。後半の2期はまだ決まっていないのではないのか。

答弁 総務課長 1期の12億円は認定されているが2期については、これから認定を受けることとなる。

決まっている訳ではない。



3億円かけて改修予定の旧中央東幼稚園

Q 旧中央東幼稚園の改修事業の目的は何か。

はつきりしないが

A 第一に災害の避難場所。普段は宿泊施設にする予定だ

質問 3億円も掛ける旧中央東幼稚園の改修計画（移住サテライトベース整備事業）は、その目的がはつきりしない。どうなっているか。

3億円も掛ける旧中央東幼稚園の改修計画（移住サテライトベース整備事業）は、その目的がはつきりしない。どうなっているか。

答弁 総務課長 地域で災害が発生した時の避難場所が第一の目的で、普段は、B&Gとも連携し宿泊などに利用する計画だ。

地域で災害が発生した時の避難場所が第一の目的で、普段は、B&Gとも連携し宿泊などに利用する計画だ。

Q 医療費が上がった後期高齢者へ支援を

A 状況を見ながら、検討はしていく

質問 県の後期高齢者医療保険料が引き上げとなる。そうした中、75歳以上の高齢者に援助を

しているのか。

答弁 町長 十分、検討する必要があると思っているが、状況を見ながら適切に対応している。

Q 「関係人口」を増やす取り組みを

A 交流人口から関係人口へ、そして移住定住につなげていきたい



上原 伸介 議員

質問

日本は、人口の減少に歯止めをかけることができておらず、真正面から「人口減少社会」と向き合わなければならない段階にきている。

これに対して、政府は地方創生事業を展開し、それに伴って多くの自治体が移住定住政策を推進している。ただ、これだけでは人口の奪い合い（ゼロサムゲーム）に陥ってしまい、希望ある未来はイメージしにくい。

そこでキーワードとなるのが、

「関係人口」である。関係人口とは、離れている特定の地域に愛着をもち、商品を購入したり、定期的に通ってイベントやお祭りを手伝う人たちのことをいう。人口減少をどう食い止めるか、という問いの重要性は今後変わらないが、人口が減少しても希望がある社会をどのようにつくっていくかという問いも、同じく重要であると考えている。この「関係人口」について、町の基本的な姿勢を伺う。

また、都市部には「ふるさと難民」と呼ばれる、他者とのつながりやリアリティを失った若者世代が多く存在している。その一方で、地方では「若者が都市部に出ることは仕方のないことだ」という声をよく耳にする。つながりを求める若者世代と、若者世代の活力を求める本町とを上手く繋ぎ合わせることで、魅力ある町の創出が実現できるのではないかと考えるが、どうか。

答弁 町長

関係人口は、移住の入り口であると同時に、地域経済や活力維持として大変重要である。本町の人口と生活レベルを維持しながら、継続可能な未来を築くための大切な要素であると考えている。

今年度末から運用開始予定の「ふるさと住民登録制度」を活用し、関係人口の可視化とネットワーク化を強力に進め、町の最新情報や魅力ある行政サービスを戦略的に提供していきたい。

また日々の生活のなかでは、どうしても不便さや課題ばかりが目につきやすいが、住んでいると気が付かない町の魅力があることも事実。つながりやリアリティを求めて本町に関わろうとする都市部の若者たちの存在は、新たな視点を与えてくれるという大きな可能性がある。関係人口の増加により外部からの評価が増えれば、私たちがこれまで気付かなかった魅力や、新たな可能性の発見にも繋がる。

消極的な考えが消極的な人材を選ぶことにつながり、それがさらに消極的施策にも結び付いてしまう。こういった負の連鎖は断ち切らなくてはならない。まずは、交流人口を関係人口の増加へとつなげ、そして定住・移住に向けた取り組みへと進めていきたいと考えている。

勝田郡議会議員協議会総会

(7月14日 勝央町)

令和8年度勝田郡議会議員協議会総会を開催しました。同協議会は奈義町議会と勝央町議会で構成しています。

役員の選任の報告、令和7年度事業報告と決算、令和8年度事業計画と予算、勝田郡議会議員協議会新役員について、それぞれ承認しました。



勝田郡議会議員協議会総会

また、今年度の勝田郡議会議員協議会の研修会については11月19日から20日の2日間、企業誘致についての先進地行政視察を行うことを決定しました。

全国小さくても輝く 自治体フォーラム参加

(5月14日～15日 福島県矢祭町)

「全国小さくても輝く自治体フォーラム」は、自律(立)をめざす小規模自治体の維持と発展をはかることを目的とした交流の場です。

「平成の大合併」が呼びかけられていた平成15年に第1回を開催し、平成22年に恒常的な会員組織「全国小さくても輝く自治体フォーラムの会」を設立し今日に至っています。

過去、平成23年に奈義町でも、このフォーラムが開催されました。

矢祭町長は講演で、これまでは合併に頼らない自立したまちづくりを目指していたが、時代の潮流は今、人口減少という深刻な局面を迎え、これからの時代、地域の身の丈に合った豊か

集約し、規模は小さくとも一人ひとりが誇りをもって暮らせる、質の高い自治体経営を目指す、力強く言われていました。

さを追求する「スマートシュリンク(賢く縮む)」への転換が求められている。機能を賢く



自治体フォーラム (シンポジウム)

常任委員会合同視察研修

(6月22日、24日 岩手県岩手町・青森県十和田市)

1、岩手町「対話から始まるまちづくり」

岩手町を訪問し、市民参加による共創型の政策づくりを学びました。

●にぎわいミーティング
町民の意見を混ぜ合わせ、新たな発想を生む場。

●トークフォークダンス
多世代が交流し、地域に関わるきっかけをつくる仕組み。

●住民アイデア実践の補助金制度
提案を具体的な活動へつなげる。

●小さな変化の共有
年間7回の会合と最終発表会で進捗を確認。

また、地域交流拠点「フューチャーセンター」も見学しました。
2、十和田市「現代美術館とまちづくり」



岩手町フューチャーセンター

十和田市では、市役所および現代美術館を視察。十和田湖や奥入瀬溪流など、年間およそ100万人規模の観光客が訪れる東北有数の観光都市です。平成13年

の構想開始から専門家委員会の設置、用地取得、平成20年美術館開館、その後アート広場が整備され、平成22年グランドオープンまでの経緯を確認しました。総事業費は約24億5千万円で、28作家33作品を展示しています。入館者は年間平均15万人。一方で、市民参加が特定層に偏るなど、関心層以外との接点づくりが課題とされていました。



十和田市現代美術館

編集後記

6月は田植えも終わり、緑の映える大変美しい時期であります。季節の変わり目でもあり、体調管理には気を付けたいものです。

議会では、町民と議会との意見交換会を行い、町民の皆様より多くのご意見をいただき、ありがとうございます。ご意見は取りまとめを行い、議員活動に活かしていきますので、今後ともご協力いただきますよう、よろしく願います。
(小阪 四郎)

【編集委員】

委員長	中井 泰洋
副委員長	芦田 元
委員	小阪 四郎
	定森 久芳
	野々上美智明
議長	岡 立

表紙の写真

瀧神社雌瀧、滝の裏より母子宮を望む。涼しき満喫。母子宮は66年ぶりに再建された。